

インパール作戦地慰霊・ご遺骨情報収集調査  
配布資料  
特定非営利活動法人アジア太平洋英霊顕彰会  
(Asian-Pacific Remembrance Honoring Association : APRHA)  
平成 29 年 2 月

目的

太平洋戦争（大東亜戦争）ビルマ方面軍の第 15 軍が、昭和 19 年実施したインパール作戦（ウ号作戦）の内、第 31 師団（烈）佐藤幸徳中将傘下で香川県高松市のご遺族の親族が従軍された山砲兵第 31 連隊（善通寺編成）を主に、歩兵第 58 連隊（高田編成）歩兵第 124 連隊（福岡編成）歩兵第 138 連隊（奈良編成）工兵第 31 連隊と、合せ第 15 師団（祭）を対象に、インド国境から近く山越えのチンドウイン河右岸（サガイン管区）の撤退地で戦没した将兵の慰霊とご遺骨情報取得調査を目的とした。

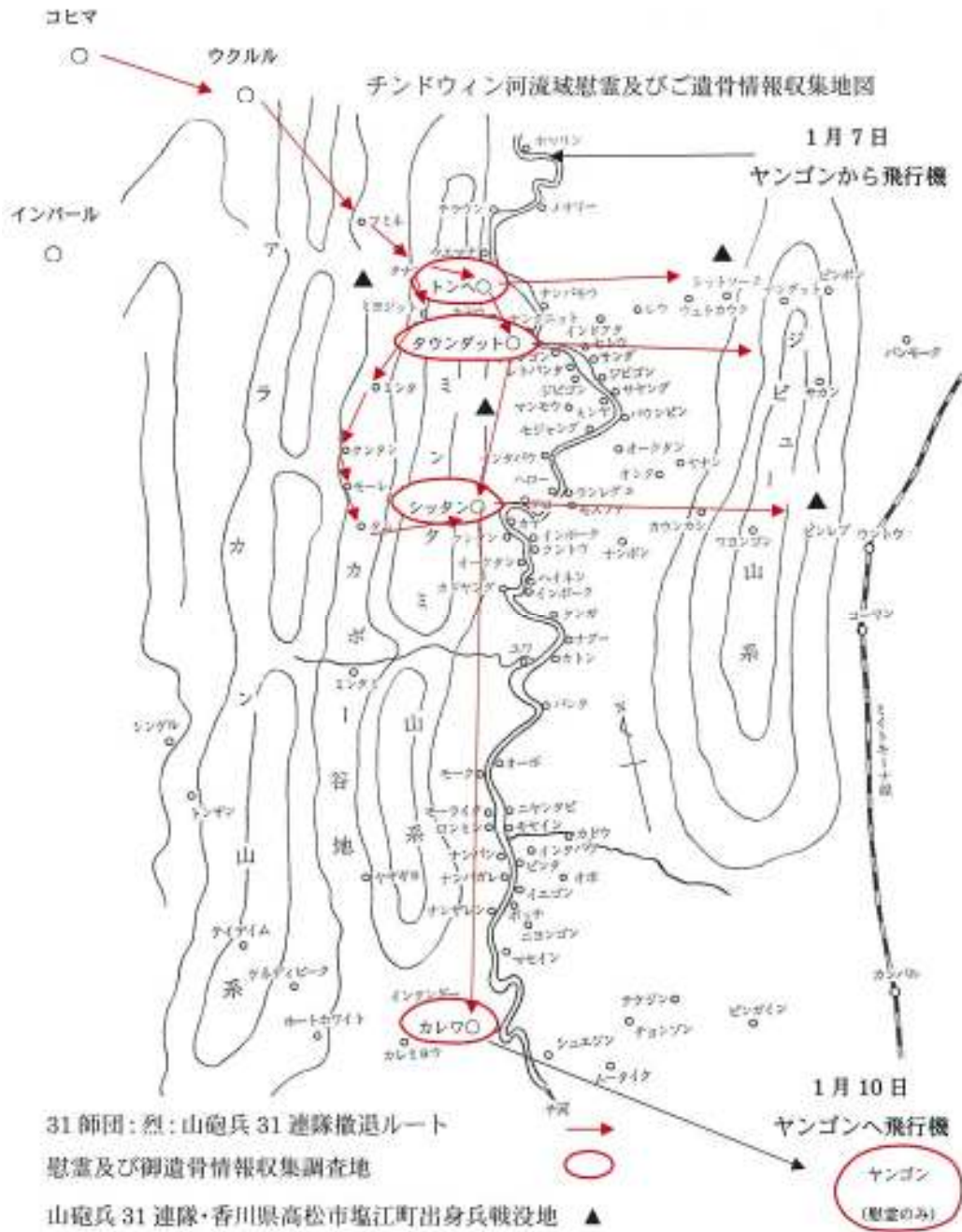
香川県高松市ビルマ慰霊碑



インパール作戦位置



## 慰霊場所



## 結果

### 1) トンへ

村長ウーチャワ・タン・シエイン (U Kyaw Than Sein・45歳)、長老ウーザワ・カール (U Zaw Khar・83歳) 両名の案内により日本兵遺骨埋葬地2か所訪問、慰霊を行った。寺院近くの埋葬地は収骨済みだったものの、もう一方の埋葬地は残骨の可能性を否定できず。





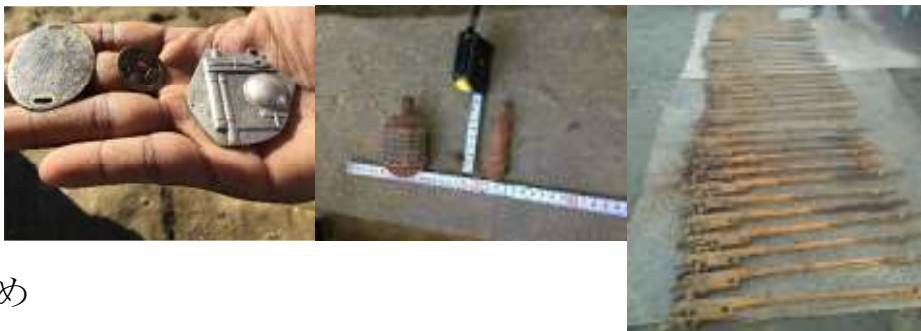
### 3) シッター

村長ウータウン・ライ (U Thaung Hlaing・45歳)、長老ウール・サン (U Lu San・70歳) 両名の案内により日本兵遺骨埋葬地の No.1、No.2 を訪問、慰霊を行った。村近くの No.1 は収骨済みだったものの、船着き場より 3.4km 山中の No.2 カニンピンニナウン (Kanyin Pin Nyinaung) では未収骨とみられる。また、本調査では未訪問の船着き場より 7km 離れた No.3 レンパイグエ (Lay Mile Gwe) でも未収骨とみられる。尚、同地点では川の崖崩れで日本軍の銃 100 挺が出土している。



### 遺留品らしき物

部隊票・認識票 (トンへ) 手榴弾・銃弾 (トンへ) 小銃 (シッター)



### まとめ

本調査の成果として、トンへ (トンへ周辺山間部とトンへ～タナン～フミネ沿道と山間部) の再調査の必要性。シッター全域及び未収骨 2 地点 (No.2 と No.3) の調査の必要性を確認した。シッターは今回が戦後日本人の 3 回目の訪問であり、再調査の余地がある。平成 28 年 12 月 23 日よりミャンマー政府は当該地区の入境申請を受理しない方針との由であり、今後の課題である。

今後の前述 2 地区 (トンへ・シッター) での遺骨情報収集調査の進展を期待したい。